

有限会社 あさひ

石川県 白山市
高川 吉浩 氏

PRポイント

土地利用率の向上を目指した2年3作体系栽培下で、効果的な排水対策、播種作業の工夫等により、六条大麦の単収は県内トップクラスの550kg/10aを実現！

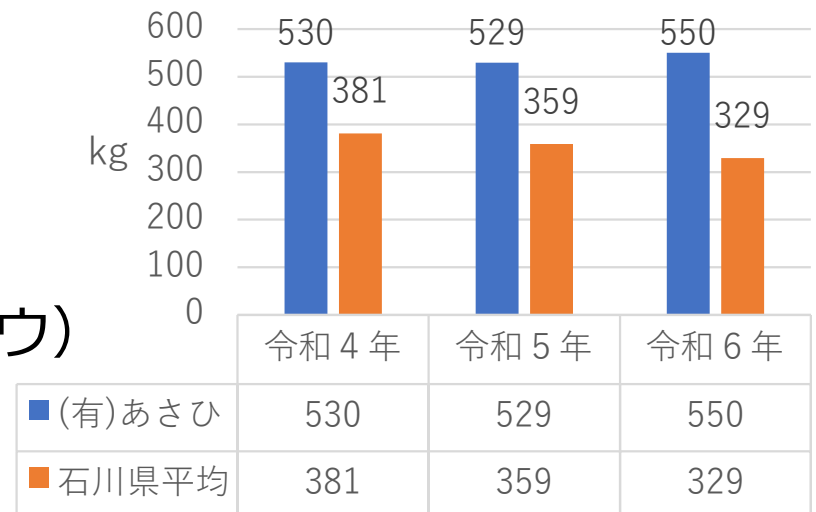


設立年月：平成17年2月

構成員：7名（取締役2名、従業員5名）

基幹作物：六条大麦 10.2ha（ファイバースノウ）
水稲 65.9ha、大豆 13.0ha（R6）

特徴：水稲・大麦・大豆の2年3作体系を導入し、**土地利用率の向上を目指した営農体系**を構築。作付け規模の拡大や団地化の実施、ドローンの活用による**労働コストの低減化**。加えて効果的な排水対策、診断に基づく適期・適正量追肥等の実施により、六条大麦の**単収550kg**（県平均329kg）を実現。



栽培のポイント

- 大麦作付ほ場は早生水稲後にすることで、水稻収穫後のほ場を十分に乾かす時間を確保している。作業上最も重視しているのは排水対策であり、額縁明渠(図1)を設置し、**サブソイラーの施工を2m間隔(図2)**と密にし、排水性を向上。
- 播種は出芽苗立ちが良好となる10月中旬にグランドロータリーによる耕起・施肥・播種同時作業で効率化。
特に、苗立数確保のため、**播種の深度(3cm)**や**土壌の碎土率**に注意している。
- 播種後出芽前の除草処理が重要となるため、できるだけ**播種直後の湿った状態で散布すること**を心がけている。



図1 額縁明渠



図2 サブソイラー

経営のポイント

- 地域のブロックローテーション調整役として、地域の生産者やJA職員と話し合いを行い、計画的なブロックローテーションにより排水対策や雑草発生抑制、地力低下や連作障害回避に努めている。
- ドローンを活用した効率的な防除や、基肥一発肥料の施用による追肥回数の削減等、**労働コストの低減**に取り組んでいる。
- JAが定める土づくりゾーン別サイクルプラン(図3)により、地元の有機センターより堆肥の受け入れ(図4)や、土改剤の投入による**土壌の最適化**を行っている。

本管内は地力が低いことが課題となっており、各地域ブロック毎にこの年度はこの土づくり資材を入れて土壌の最適化を図りましょうという取組みが土づくりゾーン別サイクルプランです



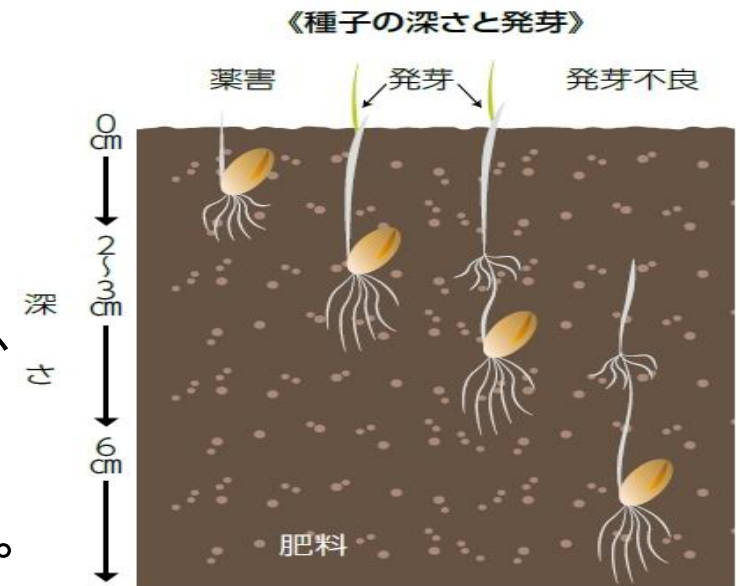
図3 JA発行冊子



図4 堆肥受け入れ

麦生産の課題

- 播種深度の調整が難しいこと。
播種深度は3 cmを目標にしており、**数センチの誤差でも発芽不良**等で茎数の確保が難しくなる為、毎年苦労している。
- 繁忙期における従業員の休日の確保が難しいこと。



イメージ図

今後の展望

- 米価上昇の中、手取りが最大となる最適な作付け比率を模索しながら、**高い収量、品質**を保ちつつ、経費削減に取り組む計画をしている。
- 今まで以上に作業の効率化を図り、水田のフル活用を目指し、講習会や研修会の積極的参加、地域生産者との意見交換を実施し、**白山市の農業を盛り上げていきたい**と考えている。